

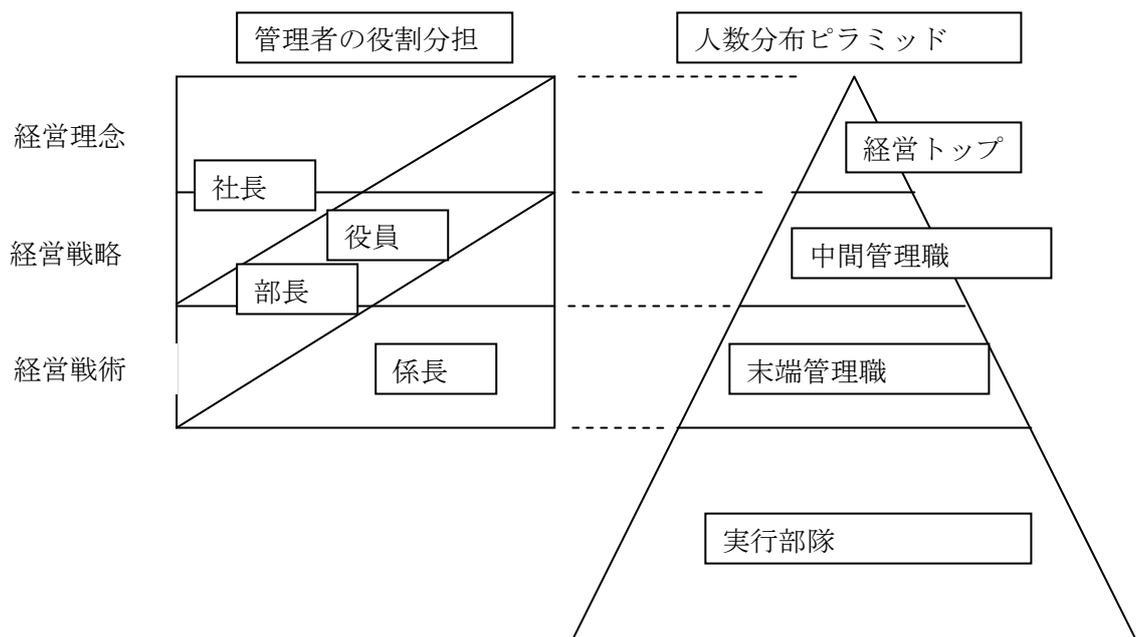
## 橋下市長の船中八策に大賛成、しかしがっかり

橋下市長の公表した8つの提言は、大賛成である。“そんなことできるわけないよ”と訝るもしくは抵抗する人もいるけれど、少なくともこれほど明確に方向を提示した政治家はいなかった。

しかし、それでも小生にとって、“がっかり”なのである。なぜなら八策のほとんどは戦略・戦術の話で理念が表されていないからである。つまり日本をどういう姿の国に持っていきたいのか、というビジョンが示されていない。このことを指摘する有識者も数多くいて、すでに巷に満ち溢れているが、小生なりの思いをぶつけてみたい。

企業経営の例で示す。(これもどこの本で書かれていることで、極めて常識的なことなのだが・・・)

次の図は、管理者の役割を表したものである。



経営トップの最大の役割は、理念を明確に示すことである。そしてその理念を戦略に具体化してくれる人材（役員や上位管理職）を任命することである。

理念のともなわない戦略や戦術は極めてもろい。戦略や戦術を実現するときには、さまざまな矛盾・葛藤・利害対立にぶつかる。そうしたときに判断の基軸を示すのが理念である。この基軸はぶれてはいけない。30年、少なくとも20年は確固たる指針となる基軸を打ち立てねばならない。そのためには歴史に対する鋭い洞察力が求められる。これまでの歴

代の総理が口にしてきたような薄っぺらな美辞麗句では意味をなさない。戦略や戦術は、世の中の情勢、世界情勢に応じて刻々と変化していかねばならないが、理念はそんなことに振り回されてはならない。

ただし、永遠に続く理念もありえない。30年経って国のありようが変化し定まってきたときに、きっと新しいさまざまな矛盾や問題点が生まれてくるであろう。その時に再度新しい理念を打ち立てることになる。

橋下構想を支持する人も大勢集まるであろう。きっとここに書いた常識的な助言をする人も多いことであろう。そうした知恵も結集して、(世の中の反対集団の圧力に屈せずに)改革に向けて前進してほしい。2割の人が賛成し、4割の人が猛反対し(既得権が崩れ、自分の生活が窮地に陥り、プライドが傷つけられるので)、残りの4割の人が“そんな大胆なことができるわけがない”と横目で見ながら眺めている、ような政策を次々と実現していかなければならない。そのときに最後の4割を味方につけるために、やはり明確な理念がものをいう。

以上

-----  
KojiMemo(25)補足 : 理念設定の条件 2012-02-24

1. 日本のあるべき姿を描くためには、世界の中での位置づけを明確にすること
2. 世界に発信した時に、たとえ賛同が得られないまでも、反発をまねくものではないこと。少なくとも容易に理解を得られるものであること。
3. 高邁な難しい哲学的な理想を掲げるのではなく、極めて平易で分かり易い表現であること。
4. 神仏の加護のような人間の能力を超えたような話はもちださぬこと。
5. 愛とか平和のような、抽象的、表面的なうわべだけの美辞麗句はさけること。
6. おなじように、「真に国民のための・・・」といった空虚な意味のない表現は使わないこと。
7. 改革によって、国民ひとりひとりが等しく幸せになるのではなくて、(誰かがやってくれるのではなくて)国民ひとりひとりが、大きな痛みを伴い、努力を強いられることで、ようやく実現できるものであることを明記する。
8. 日本古来の文化(食文化、きめ細やかな心情、美的表現、自然との調和・・・)などを重んじること
9. 震災の時に見せた、助け合いの精神、和の精神、自己犠牲を超える価値観を尊び、育てる風土を守ること。
10. 物質的な豊かさではなくて、精神的豊かさ を目指すこと(これは誰もが主張していることで、何の珍しさもないが、やはり基軸の一つとして明記し

ておく必要あり)

- 1 1. 「戦争のない平和な社会、世界」が究極の目的ではなくて（そんな時代がくるわけがない現実を直視したうえで）、その到来に向けて継続的に努力し続ける姿勢と仕組みづくりそのものを目標とすべき。
- 1 2. 日本人の固有の美德を保ちつつ、世界に堂々と発信できる能力と気質を育むこと
- 1 3. 助け合いの精神は重要であるが、”甘えの構造”から脱却すること
- 1 4. 過去の失政で、次の世代に残してしまった膨大な負債を、現在の大人とシニアが、償うこと。お金のない人は労働力と知恵で償うこと。
- 1 5. さまざまな不正に対して、厳しく糾弾する社会風土を強化すること。米国のフェア精神、アンフェアを糾弾する風土は、数少ない見習うべき点であること。

-----  
以下理念ではなくて、戦略に入る項目であるが・・・

1. 官僚支配構造からの脱却  
これだけ国民から批判を受けていて、いまのままだと、かわいそうである。  
(別に同情する必要はないが、日本にとって大きな損失である)  
個人個人には責任はない。それを許してきた社会の仕組みが間違った。  
(ある時期まではうまく機能したが、この20年に方向転換すべきタイミングを逸した)  
それを変えるのは政治の責任である。  
優秀な官僚の人材を、もっとやりがいのある、社会に貢献してもらえる場をつくろう。
2. 国民に迎合的な政治家の一扫。  
低レベルの政治屋に成り下がったのは、本人の責任ではなくて、国民が低レベルになってしまったからである。
3. その低レベルな国民を助長したのは、マスコミの責任が大きい。  
マスコミの良識と見識を、再度とりもどそう。

以上 まだ途中で未整理